

ボッチャくにたちカップ2025

レクリエーションルールについて

1. 1試合2エンド。同点の場合、タイブレーク。
(代表者による1投。得点は数えず勝者のみを決定する)
2. タイブレークの際は、じゃんけんをして勝った方が先攻(赤)・後攻(青)を決める。
投球の結果、ジャックボールに最も近いボールを投げたチームを勝者とする
3. 1エンド3名で一人2投。(合計6投)
4. コートは特設コート。(バドミントンコート約半面)
5. 一人用のスローイングボックスはなし。じゃんけんで勝った方が左右どちらかのボックスを選択。
 - ※ コートに向かって立った時、左のボックスは赤ボール、右のボックスは青ボール。
 - ※ 左のボックス(赤ボール)を選択⇒第1エンドジャックボール
 - ※ 右のボックス(青ボール)を選択⇒第2エンドは同じボックスでジャックボール
 - ※ エンドが変わっても各チームはボックスを移動しない。
 - ※ 投球しないプレーヤーはコートの外(スローイングボックスの後方)に出ても構わない。静かに待機し、他のチームの迷惑にならないようにする。
6. グループリーグの勝敗(優先順位)
勝数 > 得失点差(該当チーム) > 総得点
※上記の決定順で勝敗が決まらない場合はタイブレークを実施する。
7. ペナルティスローはなし。投球の際に、ラインを踏んだり越えたりしないように、審判が促す。
8. エンド間のメンバー変更は可能。
9. 作戦タイムは1エンドにつき、各チーム1回30秒まで可とする。
審判に作戦タイムの申告を行ったチームは、作戦タイム中はチーム全員でコート内に入り、ボールの配置を確かめることができる。
10. 介助者がランプを操作する場合は、公平を期すため、介助者はコートに背を向けて、投球者の指示によりランプ操作することを基本とする。
ただし、投球者に意思決定支援が必要な場合や、自身で投球を行うことが難しい場合は、介助者2名の補助を受け、以下の①の方法で投球することができる。介助者が1名のみの場合は、以下の②の方法で投球することができる。

- ①ランブ操作を行う介助者はコートに背を向けて、投球者の意思決定支援を行う別の介助者の指示によりランブを操作する。
- ②ランブ操作を行う介助者が投球者の意思決定支援を行い、コート内を確認して投球する。

※本ルールは「ボッチャくにたちカップ 2025」独自のレクリエーションルールです。

「令和7年度東京都市町村ボッチャ大会」のルールとは異なる取扱いとなります。

※その他についてはボッチャの基本ルールを適用。

★大会の円滑な進行のため、時間制限等を設ける可能性があります。

（詳しくは当日説明します）